柔道整復総合演習5

科目ナンバー 7C317
専門分野 必修 1単位

阿部 弘之

1. 授業の概要(ねらい)

- (1) 2年次に学んだ病理学の重要事項について、演習問題を使用して復習し、知識の定着を図ります。
- (2) 3年次に学んだ外科学の重要事項について、演習問題を使用して復習し、知識の定着を図ります。
- (3) この授業では、医療技術学部のディプロマポリシーのDP2、DP3と、柔道整復学科のディプロマポリシーのDP1、DP2、DP4に関する知識、態度を修得します。

2. 授業の到達目標

1. 病理学で学んだ重要事項を列挙し、どのようなものか説明できる。
2. 外科学で学んだ重要事項を列挙し、どのようなものか説明できる。
3. 病理学・外科学の既習事項について、柔道整復師国家試験レベルの問題に60%以上の正答率で正解できる。

3. 成績評価の方法および基準

定期試験(80%)及び中間テスト(20%)の結果により評価します。形式は、柔道整復師国家試験に準じます。試験問題に対する解説をLMSに掲載しますので、各自確認してください。

4. 教科書・参考文献

教科書

全国柔道整復学校協会監修 病理学概論(改訂第3版)

全国柔道整復学校協会監修 外科学概論(改訂第4版)

参考文献

講義資料を配布すると共に、LMSを適宜利用して情報の伝達・共有を図ります。

5. 準備学修の内容

1. 予習は、指定した教科書の次回の授業範囲を読み、概略を把握しておいて下さい。よく分からない部分は、ノートに書き出しておいて下さい。毎回、90分程度必要です。
2. 復習は、ノートを参考に教科書の該当範囲をよく読んで下さい。毎回、90分程度必要です。
3. 講義期間中に、30時間以上の予復習が必要です。

6. その他履修上の注意事項

病理学は、内科学、外科学をはじめとした医学系科目の基礎となる科目であり、しっかりと重要事項を定着させる必要があります。外科学の知識は外傷に対する処置や救命救急の基本となり、柔道整復師として働く際に重要となります。なお、授業時の質問に対してグループディスカッションして答えてもらいます。

7. 授業内容

- 【第1回】 病理学講義1(テキストの1.病理学とは、2.疾病の一般について復習します)
- 【第2回】 病理学講義2(テキストの3.退行性病変、代謝障害について復習します)
- 【第3回】 病理学講義3(テキストの4.循環障害について復習します)
- 【第4回】 病理学講義4(テキストの5.進行性病変と細胞・組織の適応、6.炎症について復習します)
- 【第5回】 病理学講義5(テキストの7.免疫異常、アレルギーについて復習します)
- 【第6回】 病理学講義6(テキストの8.腫瘍について復習します)
- 【第7回】 病理学講義7(テキストの9.先天異常について復習します)
- 【第8回】 病理学講義8(テキストの10.病因について復習します)
- 【第9回】 中間テスト
- 【第10回】 外科学講義1(テキストの1.損傷、2.炎症と外科感染症について復習します)
- 【第11回】 外科学講義2(テキストの3.腫瘍、4.ショックについて復習します)
- 【第12回】 外科学講義3(テキストの5.輸血、輸液、6.消毒と滅菌について復習します)
- 【第13回】 外科学講義4(テキストの7.手術、8.麻酔について復習します)
- 【第14回】 外科学講義5(テキストの9.移植と免疫、10.出血と止血について復習します)
- 【第15回】 外科学講義6(テキストの11.心肺蘇生法、12.脳神経外科疾患について復習します)